

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371300203&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の暮らしの中で、利用者一人ひとりが個々のペースに合わせて、ゆとりのある生活を送れるよう側面から支援している。又、日課を作らずに、利用者と一緒に過ごす時間を多く設け、出来る限り会話をすることで、少しでも利用者の声を聞きだすよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔な共有空間に、クラシックの音楽が静かに流れている。利用者の笑顔と笑い声の中、ゆったりとした時間が流れていく。1日のスケジュールはなく、利用者は思い思いに過ごしている。昼食時はデイサービス利用者や職員とのふれあいを求めて、隣接の特養の食堂までシルバーカーを押したりしながら毎日出かけている。法人で、個人情報や倫理等に関する委員会が作られている。特に、地域の方から構成される倫理委員会は、2ヶ月に1回、利用者や家族の悩みや苦情等を聞く活動をしている。そこで報告された内容は改善への取り組みがなされ、近年では大きな苦情等は少なくなってきている。また、ヒヤリハットの内容も運営推進会議等で細かく報告されており、事業運営の透明性が高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑内の見やすい場所に掲示しており、職員が日々意識して実践するよう努めている。	「1人1人の想いを大切に」という理念実現のため、職員が利用者の側にいて話をする時間を大切にしている。利用者の尊厳を考え利用者のペースに合わせた生活の中で、落ち着きを取り戻した利用者も多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学校からの招待で行事に参加している。市の催し物にも積極的に参加し、招待してくれる事も多くなった。又、スーパーへ買い物に行くと、店員の方が声を掛けてくれたり、レジの方もゆっくりと対応してくれる事が多くなった。近所の方が季節の山菜や漬物等、様々差し入れしてくれる時も多い。	事業所主催の夏祭りや敬老会には、地元の小学生が歌を、中学生が太鼓を披露してくれる。施設周辺の畑で採れた野菜の差し入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	冬季に利用者さんが作成した雑巾を近隣の学校へ持って行き、利用者さんが生徒さんへ直接手渡し寄贈している。又、運営推進会議で委員の方の要望があり、認知症についての勉強会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や防災訓練等の報告の他、ひやりハットや事故報告等のリスクマネジメントについても報告している。それに対する助言や要望、協力も得られている。	前年の課題であった行政からの出席があり様々な意見をいただいている。事業所の行事や外出の様子、ヒヤリハット報告が行われ、災害対策についても具体的な検討が行われ中身の濃い会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の健康福祉課の方が運営推進会議の委員でもあり、事業所についての取り組み状況を報告・協議し取り組んだり、様々な情報交換を行っている。	運営推進会議の時に施設の様子を見ていただいたり、ケア会議では情報交換を行っている。地域で行われる健康診断の時は、保健師の方が検診の手伝いをしてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置しており、月1回話し合いの機会を設けている。身体拘束廃止マニュアルも作成し、日々の支援に取り組んでおり「拘束しないケア」を行うようにしている。	「拘束をしないケア」の具現化のため、玄関の出入りは自由、チャイムもない。職員は利用者の動きを察知するため、利用者に背中を向けないことを申し合わせている。言葉の抑制がないか職員間で互いにチェックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、法人で勉強会を行っている。又、倫理委員会の際、委員の方が利用者さんに聞き取りをし、悩みや苦情を聞く機会を設けている。委員の方も馴染みの方が多く、話しやすい環境である。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての支援に関する事を学び、家族さんから相談があった際は、受け答えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの時点で、出来れば施設見学をして頂き、又、概要等についても、十分に時間をとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見箱を設置している。法人の倫理委員が2ヶ月に1回、利用者さんより意見を聞き運営に反映している。又、家族さんの意見を聞きだしたり、話しやすい環境作りに努め、意見等あった際は出来る限り即座に対応している。	倫理委員会の聞き取りによって出された意見をきちんと受け止め、改善している。「担当職員の名前が分からない」という意見に対しては、居室の入り口に写真と名前を貼ったり、お便りにも紹介するなどの改善を図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月の事業所会議に、管理者も出席し、気軽に話しやすい環境である。	月1回の会議のみならず、毎朝の申し送りにも管理者が出席をし、職員や利用者の状況把握に努めている。「何かあったら責任をとるからやってみよう」という管理者の姿勢のもと、話しやすい雰囲気を作られている。管理者は職員の意見を公平に聞くよう心がけている。	多角的な視点の評価項目の意味を考えながら、職員全員で評価することは 職員のレベルアップにも繋がる。年間を通じた計画的な評価により事業所の課題を明らかにし、その解決に向けて様々な意見を運営に反映していくことに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見等をその都度聞き、出来る限り取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では法人内の各事業所が持ち回りで研修を行っており参加したり、講師を務めるなどしている。外部研修にも積極的に参加し、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に入会しており、協会が主催する研修・定例会に積極的に参加している。県北地区のグループホーム定例会にも積極的に参加しており、交換研修等で他事業所へ行き実習等行い、サービスの質の向上を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で、家族さんから事前の情報を出来るだけ収集し、出来ればご本人様との面談の機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みや契約の際には、担当ケアマネジャーや担当職員が相談をよく聞き、十分な時間をかけて説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞きながら対応しているが、他のサービスも受けた上で相談に来ている方が多い。又、当ホームでの対応が難しい場合は、他事業所や担当ケアマネジャーとの相談も行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何をすることも利用者さんに聞くようにしている。利用者さんを人生の先輩として尊敬し、生活のあらゆる場面を学び、支え合う環境作りに努めている。又、出来る事はやって頂き、出来ない事を支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は家族さんが行う事を原則としている。為、家族さんには日常の様子を把握して頂いている。又、些細な事でも家族さんへ相談・報告し判断を委ねている。面会だけでなく、手紙や電話等での交流を含め、家族さんとの繋がりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養の短期入所やデイサービスを経てきた利用者さんが殆どで、利用者さんと職員は顔なじみの関係が出来ている。昼食時に、知り合いのデイサービス利用の方や特養の入所者の方と長話をする事も多い。	馴染みの方が亡くなっている利用者や、こちらを利用していることを教えないで欲しいというご家族もいたり、関係継続の支援には難しさが見られる。近所の方が漬物を届けてくれたり、親戚が訪ねてくる方もいる。馴染みの場所で買い物をしたり、デイで知り合いに会えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が声を掛け合っ一緒にいる時が多いが、トラブルが起きそうな場合は、職員が仲介役となり、良好な関わり合いを持てるよう努めている。孤立しがちな利用者さんには職員が付きっきりで、ご本人の得意な事を行ってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所になった利用者さんや家族さんに対しては、面会に行くようにし、挨拶や会話をするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を活用しており、担当職員が時間をかけ、出来る限りご本人の思いを聞き出すよう努めている。又、日々の生活の中でご本人が話した事を、ご本人の言葉のまま日誌等に記録している。	「利用者が何回も口にすることは、利用者の中にあること」と捉え、介護日誌には利用者の言葉をそのまま記入するようにしている。「長年親しんだ習慣や好み」「私の姿や気持ち」等のシートを会議で、皆で検討し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんや利用者さん、担当ケアマネージャーの協力を得て、今までの生活を把握し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察や職員同士の情報交換で、日々の状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんや家族さんが希望しているケアを組み込み、ケアプランを作成している。又、毎月の運営会議の際、全職員の意見等を聞き、その都度話し合っている。プランについては、原則として3ヶ月に1回、見直しを行っている。	ケアプランの見直しは原則6ヶ月に1回行っている。ケアプラン実施状況のチェック項目に基づいて、毎月評価をし、それをもとにケアプランを作成している。家族には面会の時に説明し、意見をいただいている。歩行時の誘導の仕方について家族の要望を組み入れ、プランを修正したこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・夜勤日誌や連絡ノートを活用し、次の勤務者への申し送りを行っている。又、ホーム内の細かい情報を全職員が連絡ノートを通じて共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則として病院受診は家族さん対応としているが都合がつかない場合は、施設で対応している。家族さんからの要望で急な外泊や、利用者さんからの要望の買い物など、出来る限り対応している。又、その日の気分や天気等に応じて、利用者さんから外出等の要望があった際も出来る限り対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の法人全体での避難訓練の際、地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得ている。又、運営推進会議の委員である民生委員の方々と行政の方との協力体制作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との関係を切ることなく、継続的に医療が受けられるよう支援している。やむを得ず転院が必要な場合でも紹介状を頂くなど、医療がスムーズに行えるよう支援している。又、状態が変わった際等、計画作成担当者も受診に付き添い、医師より適切な助言等頂くようにしている。	受診にはご家族が付き添っている。緊急時や、必要時は職員が付き添うこともある。通院カードに普段の状況を記入し、持参してもらう。受診後は家族から報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師に、利用者の情報・内服薬内容・かかりつけ医を伝えており把握している。利用者さんに特変があった際や急変時には、すぐに診てもらい指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	医療機関の県立二戸病院と連携し、担当医と相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族には状態の低下がある場合は、併設の特養へ住み替えすることを説明し、家族さんの理解を得ている。又、法人でターミナルケアについての勉強会を行っており、法人全体で支援する体制作りに努めている。	寝たきりになったり、食事を口から食べることが出来なくなったり、医療面の手当てが必要になった時は隣接の特養に移ってもらっている。グループホームと特養との住み分けをしながら、法人として最期までお世話をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルを整備しており職員が周知している。又、年1回行う救急救命講習を受け実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では月1回、火災・地震等に備え訓練を行っている。内容も火災発生箇所を変え、夜間出火想定も訓練を行っている。又、法人では年に2回、地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得て、災害等の避難訓練を行っている。	土砂災害防止のため、隣接の山の斜面にボウリングを行い、水はけをよくする工事を行っている。火災に対してはスプリンクラーを設置済みである。避難訓練を夜間想定で実施し、隣接の特養の職員に見守りを手伝ってもらっている。防災頭巾を作成している。避難の際、口を押さえる動作がなかなか出来ない利用者がいらっしや、課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の声掛け等にも細心の注意を払っている。又、法人では個人情報委員会を設置し、各事業所で個人情報について問題があれば、話し合っている。	個人情報への配慮から居室入口の名前は外している。利用者間の関係がスムーズにいくように座席を配慮したり、排泄の誘導は声掛けのタイミングを工夫しながら行っている。	今年度、異動された職員も含め、すべての職員が認知症の方の特性を理解し、同じ視点で関わっていくことが課題と考えている。ホーム内での研修や具体例への対応を検討する中で 意識の共有化を図っていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、聞く姿勢を大切に、環境や表情など、利用者さんが話しやすい環境・雰囲気作り出来る限り努めている。又、自己決定が出来るよう、選択肢を増やす等の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんに寄り添う事で、個々のペースに合わせて待つことを大切にしている。又、希望があれば外出等も出来る範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に理容に関しては、月1回市内の理容協会の方々が散髪してくれる。近隣の美容室の方が多く、以前から利用しているからと毎月、同じ理容師からの散髪を受ける方もいる。希望があればホーム内で白髪染めを行っている。又、近所の美容室へ出掛け散髪する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は併設の特養で摂取しているが、それ以外の食事の準備・片付けは当番制で職員と一緒にやっている。当番以外でも積極的に手伝ってくれる方が多い。	メニューは料理の本を見たり希望を聞いて介護主任が決めている。食事の準備は当番制ではあるが、日によってやりたくない時もあり強制はしない。食材の刻みや盛り付け等を手伝ってもらう。下膳は利用者が行う。晩酌を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量については職員が把握しており、少ない場合等はご本人の好きな物を購入し摂取している。又、法人の栄養士の指導を得ながら、栄養バランス等をチェックしている。水分補給に関しては職員の声掛けで水分量が確保出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を実施している。特に昼食後は勤務者全員で対応し、口腔内の状態把握と観察を行い、異常の早期発見に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握するよう努め、誘導や声掛けを行っている。間に合わない場合でも、ご本人を傷つけないよう配慮した声掛けを行っている。	現在のオムツ使用者はいない。オムツ外しが出来た利用者は1名である。排泄チェック表でパターンを把握し、声掛け誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には乳製品を毎日飲んでいる。便秘がちな利用者さんには水分摂取量を多く摂ってもらったり、運動を取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後としており毎日入浴可能で、拒否した場合は時間をずらしたり、体調不良の場合は清拭等で対応している。仲の良い利用者さん同士入浴することも多い。	入浴は毎日入れる状態となっており、1人で入ったり気の合う方と入浴したりと希望に沿って支援している。男性の利用者は毎日最後にゆったりと入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に関しては、利用者さんが談話室や和室・居室等、好きな場所で自由に休んでいる。夜間に関しては、就寝・起床時間は個々に応じて支援している。冬季は希望で湯たんぽを使用する方がおり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報のファイルを作成し、常に内服薬を確認出来る。通院後に内服薬が変更になった場合は、必ず申し送りをし全職員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前の情報から把握しているが、その他、会話の中からヒントを得ながら、個別的な希望・要望に応えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には近所まで散歩したり、他にも買い物等の希望があった場合は、その都度対応している。他利用者さんの通院送迎の際、ドライブがてらに一緒に車に乗っていく方もいる。	坂の上に咲く梅の花を見に行ったり、坂を下って買い物に行ったりする。毎日、昼食時には併設の施設にシルバーカーを押しながら出かけ散歩してくる。買い物やドライブにも出かけている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には2000円程度の管理をしてもらっている。買い物の際ご自身で支払ってもらうことも多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・談話室は広くゆったりとした空間がある。天窓から差し込む陽が温かく、やすらぎを感じられる。	有線放送によるクラシックの音楽が適度な音量で流れ、精神的な安定をもたらしている。玄関入り口に咲く朝顔の花が季節を感じさせる。談話室は清潔でゆったりとした作りとなっており、そこでは利用者さんが椅子取り、じゃんけんを笑顔で楽しむ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室と和室にそれぞれテレビがあり、気の合った方同士で過ごしている。又、仲の良い利用者さん同士でお互いの居室へ行き来し、会話を楽しんでいる時も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具が置かれている方もおり、中には家族さんの写真を飾っている方も居る。	使い慣れた椅子や筆筒、シルバーカー等の持ち込みがある。家族などの写真が沢山飾っており、お互いの部屋を行き来する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーが活用され、段差も無い為、安全な歩行が可能である。居室が分からないという方には本人希望で居室入り口に張り紙や飾り等をつける等の工夫をしている。		